



鞆の浦学園だより



No.5
2021年(令和3年)6月1日

「大丈夫。成長したけー，大丈夫。」

～学校組織は、協調的・批判的文化を大事に!～

6月に入りました。本格的な梅雨の時期になりますが、改めて防災の観点から不十分なところは適切に対応しておきたいものです。お気付きの点等がありましたら、遠慮なくご相談ください。

今朝の様子です。子ども達が登校する前、校庭では地域の方が掃き掃除をされ、教頭は教室や廊下の窓を開けたり、落ちているごみを掃除したり、早く来た教員はアルコール消毒をしたり・・・

また、子ども達が安心して登校できるように、交通指導員の方や保護者・家族・地域の方の付き添いや見送りをします。さらに、地域にあるこの坂は滑りやすいので、滑り止めを依頼していると教えてもらいました。

日頃の生活では、なかなか見えないところで、たくさんの方に子ども達の生活を支えていただいています。あたり前の生活ができる土台には、保護者や家族、地域の方が、子ども達を大切にしている温かい文化が根付いていることを強く感じています。

先日、登校してくる1年生との会話です。

「明日は休みじゃなあ。」
「でも、とうさんは仕事なんじゃ。」
「そっか、じゃあ、一緒に遊んでもらえんな。さみしいな。」
「大丈夫。成長したけー，大丈夫。」
「そっかあ，すごいな～。成長したなあ～。」
「そうよ。成長したんよ～。」



2年生への音読発表会(1年生)

誇らしく話す表情には、自信がみなぎっています。以前は泣いたり、困らせたりしていたのかも。「大丈夫，成長したけー，大丈夫」は、心強い言葉であり、私も嬉しくなりました。

学校という組織も成長するため、協調的・批判的文化が大切だと思っています。協力しながら、更により良いものを創り出す文化です。4月、鞆の浦学園「ランドデザイン」と「学校評価自己評価表」を作成し取組を進めています。

どちらもホームページでご覧いただけます。また、広報「ふくやま6月号」には、「第6回福山ブランド」として「鞆学」が紹介されています。こちらも是非ご覧ください。

～「日本遺産」認定から3年～

「日本遺産 (Japan Heritage)」は地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。

2018年(平成30年)5月24日、鞆の浦の近世港町をテーマとしたストーリー「瀬戸の夕風が包む 国内随一の近世港町～セピア色の港町に日常が溶け込む鞆の浦～」が国内65番目の日本遺産に認定されたことは、記憶に新しい方も多いのではないのでしょうか。認定から3年。この間、様々な取組が進められてきました。本学園でも地域貢献のできる子どもや教職員をめざして「ふるさと鞆・福山」の魅力発信の取組を進めています!



常夜燈前で開かれた祝賀会
くす玉を割って日本遺産認定を祝いました!
2018年(平成30年)5月24日

「日本遺産」 ～3年間の取組～

当時の6年生(現在の9年生)が
作成した鞆の浦紹介パンフレット

2018年(平成30年)5月24日に
駅前で配られた速報のチラシ



認定翌年の6年生(現在の8年生)が、手書きのマップや写真で名所を紹介する観光看板を作り、鞆支所・鞆公民館の屋上眺望デッキに設置されました!

～日本遺産PR動画～



日本遺産PR動画は、福山市ホームページ「えっと 福山」観光スポット「鞆の浦」や「日本遺産鞆の浦魅力発信競技顔 VIST 鞆の浦」でご覧になれます。